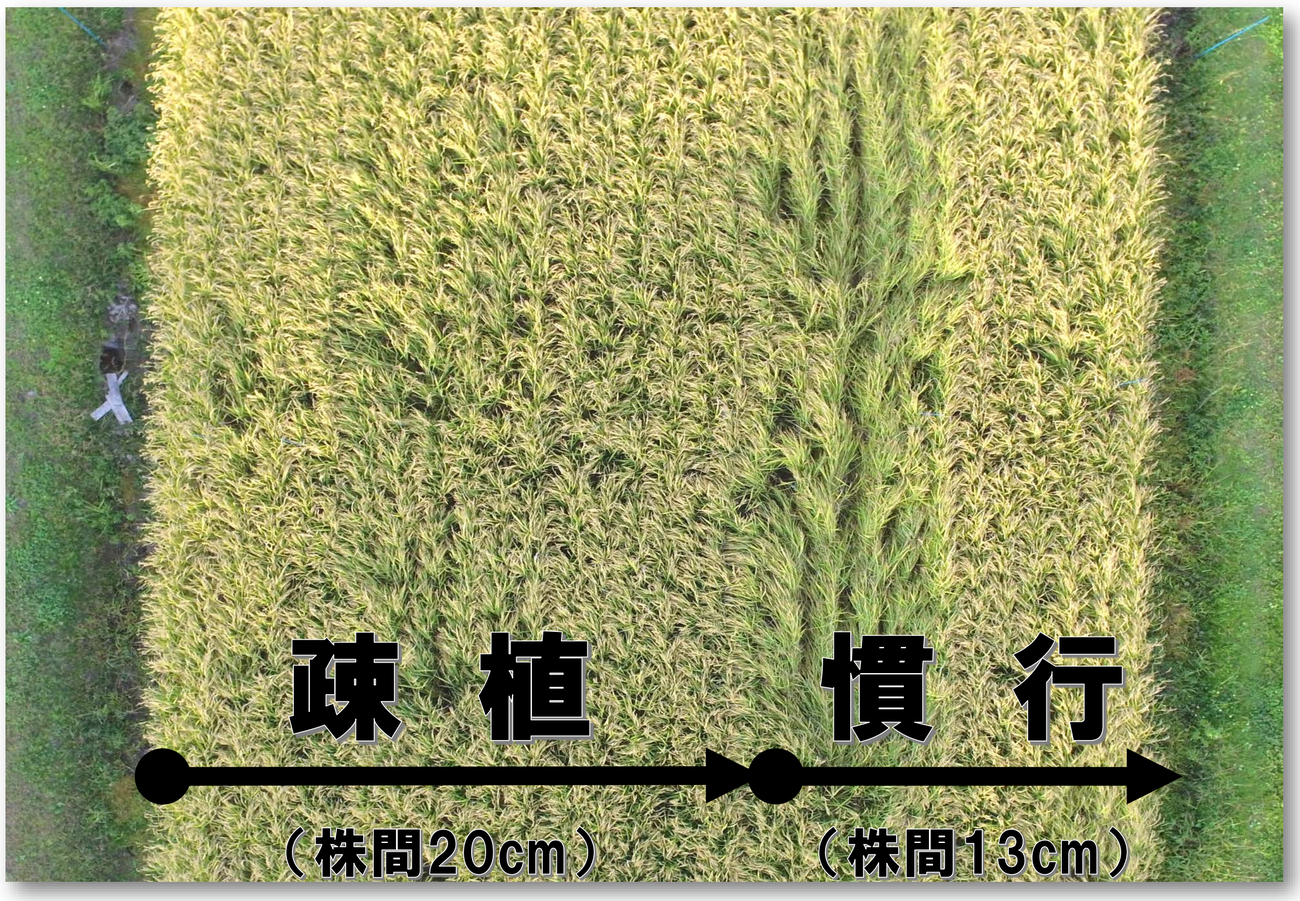
苗を減らして低コスト！ 倒伏が減る「そらゆき」の疎植栽培

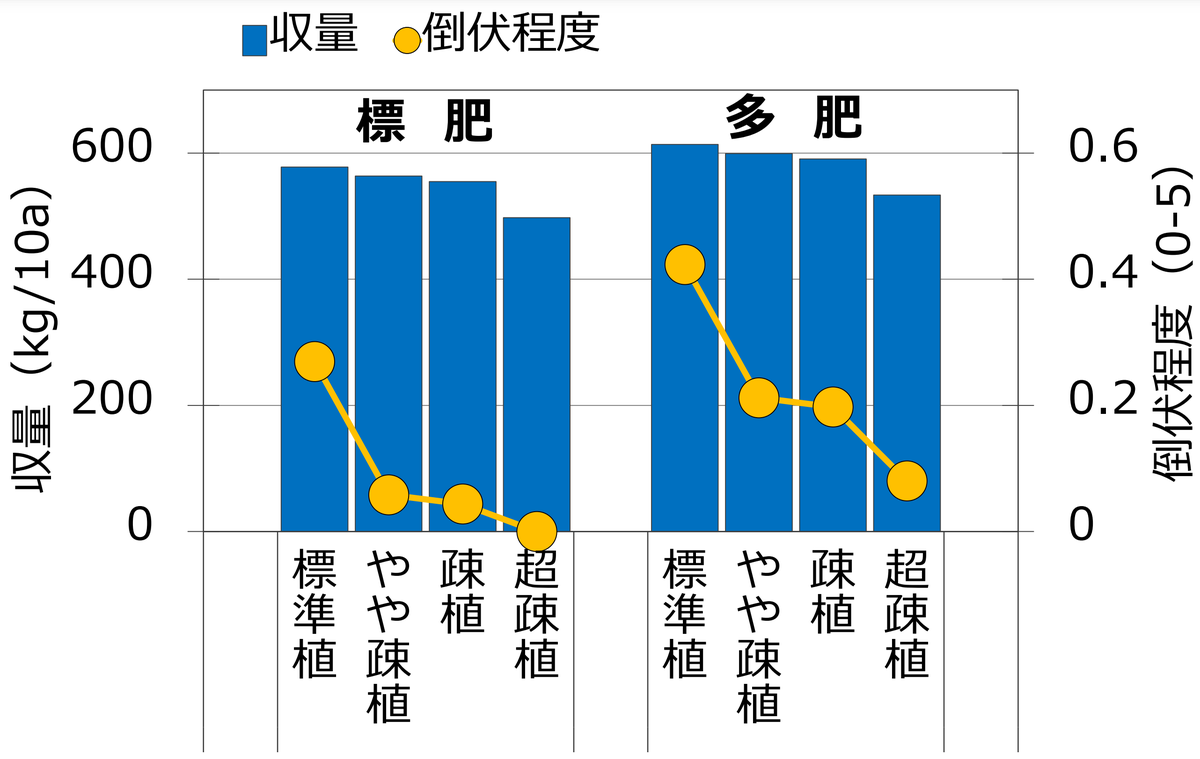
概　要 Abstract

「そらゆき」の疎植栽培は
◆ 苗箱数を減らして、育苗に関連するコストを低減できます。
◆ 収量は低下することがありますが、倒伏被害を軽減することで、収穫作業能率の低下を回避するなど、生産性の向上が期待できます。
◆ 道産業務用米の安定供給に貢献が期待される技術です。



成　果 Results

◇ 「そらゆき」の疎植栽培の注意点 ◇
◆ 出穂期までに草丈100cm以上となる場合、倒伏の危険性が高くなります。
（慣行栽培では90cm以上です）
◆ 疎植栽培は欠株や生育・登熟不良による収量低下を助長するので、
①健苗育成や丁寧な圃場準備により移植精度を確保すること
②初期生育や登熟を促進する栽培管理
など基本技術の励行がより重要です。



標準植23株/㎡以上,やや疎植18-22株/㎡,疎植14-17株/㎡,
超疎植11-13株/㎡,標肥7-9kgN/10a,多肥10-12kgN/10a

試験区分	区	栽植密度（株/㎡）	苗箱数（枚/10a）	出穂期（慣行±日）	籾数（千粒/㎡）	収量（kg/10a）	育苗関連物財費（円/10a）
疎植	試験区	15.6 株/㎡（株間19cm）	35 枚 (71%)	+1 日	27.6 千粒	542 kg (95%)	7,559 円 (71%)
	慣行区	22.0 株/㎡（株間14cm）	49 枚(100%)	―	29.5 千粒	566 kg(100%)	10,582 円(100%)
超疎植	試験区	11.7 株/㎡（株間26cm）	27 枚 (55%)	+1 日	27.8 千粒	485 kg (88%)	5,831 円 (56%)
	慣行区	21.2 株/㎡（株間14cm）	48 枚(100%)	―	30.2 千粒	551 kg(100%)	10,366 円(100%)

2016-2018年の現地試験における疎植のべ13地点、超疎植のべ7地点の平均値。苗箱数や育苗関連物財費は成苗ポット換算。

普　及 Dissemination

◆ 水稲大規模農家等における育苗面積の軽減を目的に疎植栽培を導入する場合の参考とします。
◆ 栽植密度及び倒伏対策の生育基準値を除くその他の栽培管理は、「水稲品種「そらゆき」の多収栽培指針」（平成29年指導参考事項）に準じます。

連絡先 Contact

中央農業試験場
生産研究部 水田農業グループ
0126-26-1518
central-agri@hro.or.jp